

議 事 録

件 名	第 2 回大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会
日 時	平成 28 年 11 月 18 日（金）13:00 ～ 16:00
場 所	松江商工会議所 2F 大集会室
出 席 者	別紙のとおり

1. 開会

（環境省：西首席保護官）

予定の時刻になりましたので、ただ今より第 2 回大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会を開催させていただきます。本日の会議は公開で開催しております。報道関係の皆さまにおかれましては、これ以降のカメラの位置は所定の位置からのみでお願いいたします。私、本日の司会を務めさせていただきます、中国四国地方環境事務所 米子自然環境事務所の西と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

本満喫プロジェクトの推進、地域協議会の運営は、鳥取県、島根県、岡山県、それから環境省中国四国地方環境事務所が共同で執り行っております。はじめに、共同事務局を代表して、環境省中国四国地方環境事務所 所長の牛場より、ごあいさつ申し上げます。

2. 挨拶

（環境省：牛場所長）

皆さん、こんにちは。環境省中国四国地方環境事務所所長の牛場でございます。日頃から国立公園行政、また環境行政にご理解、ご協力を賜り、また本日はお忙しい中、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト第 2 回地域協議会にご参集いただきまして誠にありがとうございます。

さて、去る 9 月 5 日に開催されました第 1 回目の地域協議会開催後、各地域部会、子会議、孫会議が発足いたしました。各地域の関係者の皆さま方が構成員となり、具体の取り組み方針について、より地域に根ざしたご議論、精力的なご検討をいただいています。

また、本満喫プロジェクトの 8 公園を選定した環境省の有識者会議の委員でもある、デービット・アトキンソン氏をはじめ、インバウンドや海外の国立公園に造詣の深い 3 名の有識者の皆さまが実際に大山隠岐国立公園の現場を視察され、ご意見をいただく機会もございました。このような経過のもと本日は、現時点までの検討結果として、ステップアッププログラムの素案をお示しし、ご

議論いただく運びとなっております。まだまだ十分に地域の声を拾い切れていない部分、あるいは関係者間の調整が十分でない部分もございますが、本日のご議論を踏まえ、さらに各地域部会等を開催し、次回、12月開催の第3回協議会において、ステップアッププログラムを取りまとめる予定でございます。

本日の会議時間、また今後のスケジュールも非常にタイトではございますが、建設的なご議論をお願いいたしまして、会議冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 出席者紹介および配布資料確認

(環境省：西首席保護官)

配布資料の確認。

出席者紹介は出席者一覧の配布をもって省略。

それでは議事に移ります。

本日は、大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020 素案についての検討となっております。協議会においてこのプログラムをまとめるにあたり、構図としては各県、各地域の部会からの提案を受け、その提案内容を協議会で検討、フィードバックをする仕組みとなっております。そのため、はじめに第1回協議会開催後に発足しました各県、各地域部会における状況について、各地域部会事務局の各県さんからご報告をお願いしたいと思います。

4. 会議内容

■説明

(1) 大山蒜山三徳山地域部会について（鳥取県：池内課長）

大山蒜山三徳山地域部会でございますが、第1回を10月12日に開催いたしました。参加者は、鳥取、岡山両森林管理署、国交省交通企画課、地域振興課、倉吉河川国道事務所、環境省国立公園課、また地方公共団体として鳥取、岡山の関係する市町村にご出席いただきました。また観光関係団体として山陰インバウンド機構、NPO 大山中海観光推進機構、他、地域の観光局等です。また、他にも自然保護関係団体の方からもご出席いただきました。

そして同日、有識者の岩手大学の山本准教授にアドバイザーとしておいでいただき、前日には現場を見ていただき、そして、会の前段としまして半日かけてアメリカのナショナルパークの紹介、大山隠岐に対するいろんなご提言を頂戴したところでございます。

進め方といたしましては、特に個別の議論を中心にやっております、第1回は基本的には、この協議会でご案内いたしました内容の確認と第2回に向けたアイデア、ご提案をご提供いただけるようにお願いしました。

そして、事務局側の提案に関係しそうな行政機関等に回答を求める作業を 10 月いっぱいとしたしまして、取りまとめたものを第 2 回の部会ということで 11 月 14 日に開催いたしました。そこでご提案いただいたものの内容、そして実効性等を議論し、可能な限りは本日示すプログラム案に織り込んだ形にしております。ただし、もう少し議論が必要という項目がたくさんございましたので、それにつきましては、次は年末に予定しております協議会に間に合うような第 3 回の部会を開き、そこでまとめていくよう考えています。以上でございます。

（２）島根県地域部会について（島根県：齋藤課長）

島根県の満喫プロジェクト、地域部会につきましては、鳥取県さんから遅れること 1 日、10 月 13 日に実施しました。島根県には、同日、ロス・フィンドレーさんに現地を視察いただき、その状況も含めて、冒頭にロス・フィンドレー氏を囲む意見交換会を行った後、地域部会を開催しました。ロス・フィンドレーさんは、ニセコで、自身、いろんなレクリエーション事業を実施しておられるという立場から、当日は三瓶山周辺を見ていただいた後に、民間の皆さんのもっと前に出た取り組みが必要ではないか、頑張りましょうという激励をいただきました。

その後、地域部会を開催し、参考資料 2－2 に構成員の方を掲げさせていただいております。特に島根県の地域部会を構成する委員を選定するにあたりまして配慮したのが、公共団体、観光関係が男性の委員が多いということで、有識者の皆さんには、できるだけ女性の視点でご意見をいただくこと、それから、出雲市、松江市の国際交流員、それから西ノ島町の方に定住している外国人の皆さんにもこの有識者として地域部会に加わっていただき、現在、在住しておられる外国人の方から見てこの地域を、今後どういうふうな受け入れをしているのかというご意見をいただけるようお願いしました。

当日は、島根県の場合、大山隠岐国立公園の地域が、隠岐地域、島根半島の東部、西部、松江の美保関を中心とした地域と、出雲市の出雲大社、日御碕を中心とした地域、そして三瓶山というふうに、島と半島と山という、それぞれ違った特色を持つ地域が大山国立公園の方に入っておりますので、それぞれの地域ごとに、そのステップアッププログラムの取り組みを今後どうしていくのかということを検討していただく組織として、子会議の下に孫会議というような形で、それぞれの地域に部会を置かせていただいております。

この地域部会では、各地域の部会からたたき台案といたしまして、その地域ごとに、こういった方向性でやっていきたいというご意見をいただきました。それにつきましては、お手元の議事録を見ていただければ分かりますと思いますが、特に申し上げますと、島根半島の西部地域辺りの日御碕地域辺りでは、やはりこの満喫プログラムに、8 か所の国立公園に選定になったということを非

常にいいチャンスととらえ、国立公園、インバウンド対策も含めて、取り組みのスタートにしていきたい。地域の皆さま方がこの機会に一緒になってやっていきたいというご意見をいただき大変心強く思ったところです。

本日のところでは、まだまだたたき台の形で、12 月末のステップアップのプログラムの策定に向けて、これからまたスピードアップして進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

5. ステップアッププログラム 2020 素案の検討

(環境省：西首席保護官)

ありがとうございました。これから説明する大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020 素案では、今ご説明のありました地域部会の議論も踏まえつつ、素案として取りまとめているものでございます。

それでは、お手元の大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020 素案につきまして、順次、共同事務局よりご説明いたします。構成に沿って説明いたしますが、この構成に関しましては満喫プロジェクトで選定されました 8 公園全てに共通するものであり、環境省で統一して示したひな型に沿って構成しております。それでは共同事務局よりご説明をお願いします。

■説明

はじめに（共同事務局：牧）

- (1. 1) NP 特徴（共同事務局：受注者）
- (1. 2) インバウンド状況（共同事務局：森）
- (2. 1～2. 2) コンセプト目標（共同事務局：宮内）
- (2. 3) 課題と取組の方針（共同事務局：牧）
- (3) 目標（共同事務局：森）

■意見

(真庭市：太田市長)

頑張っているが正直言いまして具体性がない。海外から来ている人がこれだけ少ない地域では、もう少し具体的な書き方が必要である。これだと言葉を入れ替えれば、どこでも通用することしか書かれてないというふうに思います。

この前の会議でも申し上げましたように、日本海と瀬戸内海をつなぐ、そのルートをどうつくっていくのか。そういう中で長期滞在が特に欧米の場合は多いので、どういうふうに泊まらせていくのかの戦略、地域の弱点をどう克服していくのかの戦略が全然練れてないと思います。

宿泊にしても、例えばもともと悪かったオーストリアのチロル地方でも農村

型リゾートが成功しているわけです。そういうものが、例えば、蒜山とか大山のどこでも取り入れられないかとか、シェアハウスみたいなものを拠点的につくって、そこから長期滞在する外国人が情報発信していくとかですね。

そういうようなことも含めて、もっと掘り下げていかないと、満喫プランとかインバウンドを前提にしたものが達成できないのではないかと思います。それから、11 ページの海外へ広く発信されてないなか、挙げられているプロモーションが非常に消極的です。もっと具体的な発信というのはどういうことなのかをもう少し書けると思う。そういう発信性についても非常に弱いと思っています。

（鳥取県西部総合事務所：中山所長）

10 ページの外国人利用者を魅了する一体的景観の一体性というのは、地域それぞれの一体性なのか、この地域を通した一体性なりを示しているのか、はっきりさせていただきたい。

あと、現状分析の中で、何かちょっと新しいものに対する評価なり、新しいものの取り入れ等が少ない気がします。例えば、キャンプとかでも、大山の近くではグランピングのような新しいもの、また、出雲でもいろんな形での新しい動きもあるように聞いていますので、そのあたりの現状分析も取り入れていただければ、ちょっとエッジが立つかなと思います。

あと、外国人の対象ですがアフリカとオセアニア、南米圏以外は全部対象とするみたいな感じですが、この地域に関心が深そうな国などの深掘りした分析も併せて加えて、もう少し絞られたほうがいいのではと思ったところであります。

（共同事務局：森）

目標の国、対象とするターゲット国につきましては、基本的には今のところ山陰インバウンド機構さんや各県の方々が対象としているエリアを採用させていただいていますが、国立公園という視点で絞り込むべきかどうかについては、また、事務局で検討させていただきます。

（松江市：星野部長）

テーマで神話について有識者の方から言わせると、何か消極的な話だというふうにおっしゃったんですが、この地域は京都や奈良よりも歴史は古く日本で一番古い歴史の地域。この国立公園はそういう地域にあるので、神話というものにもっと力を入れていただきたいと感じております。

それと、もう1点、ITを活用した情報発信。今の外国人の方はスマホやiPadを利用しておいでになっているわけで、10、11 ページにあります誘導標式などの次元よりもITを活用した情報提供やさまざまなコンテンツの多言語化につい

ては、どういうお考えなのか伺いたいです。

それともう1つ、一端関西にきた外国人はどうしても広島に流れていくわけですが、それを四国側ではなくて、山陰方面に来ていただく手法として、島根県さんのほうでは旧国道54号線を自転車ロード、やまなみ街道というふうなことで取り組んでいただいております。一方で、瀬戸内海ではしまなみ海道などの取組みで、自転車の外国人観光客が激増している。例えば、大山から蒜山に行くコースは大変人気のあるコースで、そういった島根半島を周遊するとかこの地域に自転車で訪れるような欧米人をターゲットにし、目標中に加えてはどうかと思っております。

(共同事務局：宮内)

先ほど最初に厳しいご指摘をいただきましたコンセプトに関して、事務局の考えを再度ご説明させていただきます。

まず、コンセプトは大山、蒜山、三徳山地域、それから、島根県の各4地域、これらを包括するようなものとして考えられるものは何かと、共同事務局でもかなり頭を悩ませながら考え出したものでございます。大地の成り立ち、神話信仰、それから、自然・山・島・海といったこと、事務局としても、特徴として出せるものとしては出尽くしている感もあり、これを修正するのも悩ましいところもございまして、具体性がないといったようなご指摘でしたが、もし、代案のようなものをご提案いただければと思います。

それから、コンセプトに続いてお話がありました広域連携の話ですが、国立公園への誘導策、プロモーションにかかる事項が後段にございまして、後ほど詳しくご説明させていただきます。あと、インバウンド向けの情報発信が弱い、あるいは手段が古いというご指摘については、プロモーションの中に **Facebook**、**Twitter**、**SNS** といったものを活用しながら、戦略的な情報発信を行うこともご説明をさせていただきたいと思っております。

この前段でご説明した課題と取り組みの方針は、この国立公園全体の方針ということで、大まかな書き振りにさせていただいて、この方針に基づいて、各地域、各ビューポイントで、方針に基づいて具体的な取り組みをブレイクダウンして書いてございます。後段でこの辺りは説明させていただきます。

(中海・宍道湖・大山圏域市長会：中瀬事務局長)

ターゲットに関することですが、こちら国立公園へいらっしゃる方はアクティブに山登りをしたり沢歩きをされたりするような方と、単に景観、大山なり三瓶山なり半島なりの景観を楽しまれる通常観光客とは全然違うと思います。そこを分けて、アプローチをされたほうがいいのではないかと。そのあたりはいかがでしょうか。

(共同事務局：森)

ターゲットの目標は、そこまで細かい分けはしておりませんでした。どちらに限ることなくどちらも利用を増やしていきたい対象と思いますので、記載方法を検討したいと思います。

(中海・宍道湖・大山圏域市長会：中瀬事務局長)

もちろん両方望むのも分かります。それによってアプローチが変わるのではないかとということで、皆さんと一緒に考えていけばということです。

(共同事務局：森)

プロジェクトの実施のところで具体的な取り組みについては述べさせてもらいますが、アプローチは恐らくプロモーションや誘客に関する部分だと思いますので、その対象に応じて、どういった方と連携してどういった方法を選ぶのかを書き込んでいければと思っております。

(鳥取県：広田部長)

このステップアッププログラムで、いわゆる目標とした世界水準のナショナルパークっていうのは、たくさん世界中にある中で、鳥取なりこの大山隠岐の特徴に似たようなところを目標としましょうとか、ある程度の目標が見えてないので、何を今後生かしていこうかの手段などが明確でない感じがします。いわゆる世界水準のナショナルパークにもいろんな種類があり、1つには固まらないと思いますが、欧米の方は歴史などを好まれる。そういったところをターゲットにするなら、世界水準のナショナルパークを目指していく中では、何が違って何が足りないのか、そういった整理の仕方をする、もう少し目標が見えてくる、また、やること自体も見えてくる感じがします。世界水準のナショナルパークを目指しておりまして、と説明するのですが、じゃ、それはどんなパークかと言われると、なかなか明確に答えが出せないところもありまして、ある程度そういったところが見えてくると、具体性が出た計画になると思います。

(近畿中国森林管理局：馬場部長)

大山ではわれわれも治山事業等々でいろんな施設を入れております。それでも、一端雨が降れば大きな山崩れや落石、そういう危険性があるところです。三瓶とか他のところも共通だと思いますが、日本人であればある程度日本の自然の特性も知っておりますし、看板も危険表示もほぼ日本語中心なのでわかると思いますが、外国の方が入られたときに、自然災害のようなものへの対策が重要だろうと思っております。10、11 ページなど安全確保の視点が欠けていると感

じますので、どこかに盛り込んでいただくようよろしくお願いします。

(NPO 法人 大山中海観光推進機構：石村理事長)

12 ページの目標の数字について、2020 年目標数字を 2015 年の 2.5 倍にするということですが、その数字そのものが国立公園に入ってきた数がどうか分かりにくいというのがあります。宿泊の多くは大山や三瓶山、隠岐など宿泊する場所は幾つかありますが、多くは米子市、松江市、出雲市など国立公園に囲まれた地域の都市の宿泊拠点、そこに多くの観光客、外国の滞在客が来ています。国立公園に入ってきた数字の取り方はなかなか分からないと思うので、むしろ米子、松江、出雲とか、この地域の都市の宿泊者は案外取りやすいと思うので、そういったものを 1 つの目標数字にするのもありかと思います。

現実的に最近外国の方をたくさん見るようになりました。驚くぐらいに大山あたりでもこの秋においでになっています。ですので、この目標数字を 2.5 倍にするっていうのは、多分今年、来年には達成するような気がするんですね。

先日も森の国という施設がありますが、欧米でガーデニングをする関係の人たちが 15 人イギリス、フランス、ベルギーなどからおいでになるようなこともあって、2～3 年前には考えられない状況が起きてきています。

ちなみに大山の宿泊とか入り込みを見た場合、大山で宿泊する場所っていうのは大変限られていますし、外国人が泊まりたくなる場所も限られており、米子に泊まって登るケースが多いと思います。

それから、鳥取県知事が国際リゾートっていう表現をされます。大山から三瓶山、真庭、隠岐も含めて、このあたりに 1 週間、2 週間滞在していただくような方が増えてくることを平井知事もイメージされていると思います。ただ、数が来ればいいということではなく、滞在につながるような取り組みを徹底する考え方が、この中にあってもいいのかと感じました。

(共同事務局：森)

ご意見ありがとうございます。目標の部分の実数については私どもも今検討している最中で、ご指摘いただいたとおり随時調査が行われているのは宿泊者数です。その数字を使って何か一定の割合を掛けたりすることで、公園を利用している数から把握するような方法はないかと今検討しております。

まさにこれもご指摘どおりなのですが、国立公園の利用者のほとんどは、日本においては国立公園内に泊まるというよりも、周辺都市に泊まっているという方が多いと思います。その割合を出すときも国立公園内に限らず、国立公園に実際に訪れているだろうという範囲をある程度引いて、人数の把握ができればと思っています。ありがとうございます。

(山陰インバウンド機構：市村事務局次長)

多分、この提案はたたき台だと思いますので、このようにたくさん突っ込みどころがあるのはとてもいいことだなと。議論は盛り上がらないといけないので、このようなたたき台ができたのは、ある意味良かったと思っています。

今議論の中でぜひ盛り込んでいただきたいアプローチの視点が2つありまして、まず1つは鳥取県と島根県に宿泊されている数字を基本として目標数の議論をされていますが、そのベースとなる宿泊数でいうと、鳥取県と島根県と両方併せて2015年ベースで大体12万6千、13万人弱ぐらいだと思います。それが10人以上の宿泊施設か10人以下の宿泊施設かで若干数字が違ってきますが、多いほうの数字を取って約13万人というところです。それで、泊まっている人たちが国立公園大山を目的に来て泊まってらっしゃる方が何人いるのかというところは、実際に調査を掛けていませんが、これまで両県いろいろな形でやってきており、インバウンド機構も立ち上げ前にそういう調査も掛けておりました。そこから見ると、数字ベースで言えないですけども、大山に登るためとか、大山に何々するために来ましたという宿泊数は多くはないと思います。でもゼロではないです。ゼロではないっていうところの数字で言いますと、直行便が韓国に飛んでいます。10月23日からエアソウル、LCCに切り替わって週3便飛んでいます。それから、DBSクルーズフェリーというのが、週に1回定期化客船ということで週1便来ています。それから、9月の14日から香港航空の米子鬼太郎空港-香港間が週2便飛んでいます。この3つの直接的なアクセスルートで間違いなく大山を目的に来ているなというのは、DBSクルーズフェリーです。こちらは毎回300人を超えるぐらいの人数が来ていると思います。その中には、間違いなく登山をするためのグループやツアー、団体と、サイクリングをするためのグループやツアーが盛り込まれています。

この人たちは金曜日の9時ごろ船から降りて陸（おか）に出て、9時ごろからスタートして金曜日の夜は確実にどこか泊まっているわけです。それが鳥取県か島根県か、蒜山も入れれば岡山県、必ずここには1泊はしています。次の日またぐるっとして帰ってくる。これがいわゆるDBSクルーズフェリーの鉄板商品にもなっていますので、そこは確実に大山を目的に来ています。

では、エアソウルのほうはどうかといいますと、なくはないですが主流ではありません。エアソウルになる前のアジアナの一番売れている商品は温泉とカニ、これがもう鉄板商品でしたので、その温泉とカニの中に大山をトレッキングするっていうのも中には混じってはいますが、もれなく混じっているっていうわけではないので、その程度かなと。

香港はスタートしたばかりなので、今のところ商品名で見ると大山に登りましょうとか、大山に何々っていうような商品タイトルが見当たりませんので、まだ、そこはこれからなのかというところです。

ですので、今来ている人たちを大山に向かわせるアプローチも視点も必要だと思いますし、先ほどご意見が出ていましたけれども、広島というのは絶対捨てられない方面だと思います。実際に広島にはかなりの数の外国人が来ている場所で、それは、市場別にいってもアジアも多いですし欧米も多いです。そういうところからみると、広島からワンコインバスで、松江まで3時間ぐらいで来られますし、広島からどう引っ張ってくるのか、山陽、瀬戸内、四国からどう振り向けてくるのか、その辺りの視点も必要かと思いました。

それで、すごいなと思ってみたのは、目標のところいきなりドイツが出ている点。こういう果敢なチャレンジや視点も重要かと。やはりプロジェクトというのは夢がないとプロジェクトではないので、そういう意味ではどの市場がいかを検討していくのはとてもいいと思います。

(中国運輸局観光部：木嶋部長)

インバウンドに関していろいろと書かれております。中国運輸局観光部、もちろん皆さんにご協力させていただきますので、何か協力できるところなどあればこちらからもアプローチいたしますし、どんどん連絡を取っていただければと思っております。

この大山隠岐の国立公園について、広島近辺で私もいろいろと観光関係者などと話しますが、やはり世界の方々から広島というワードは大変知名度があります。これは世界最初の被爆地や歴史的な背景もあって、広島は知名度が大変高い。ただ、一方でその近辺の瀬戸内、山陰はそれほど知られていないと聞いております。それでその山陰の中にまた大山隠岐国立公園というものがあるというところで、この売り出し方、プロモーションの仕方を今後具体的に考えられると思いますが、その山陰として売っていくのか、大山隠岐として売っていくのか。そういったところですね、いろいろなワードが混在するとよく分からないところもあると思うので、そのあたりは山陰インバウンド機構の市村さんも一緒に、どう売り出していくのか議論して一緒に連携してされたほうがいいと思いますし、中国運輸局もさせていただきます。

中国地方は全国の5%の生産高とか、5%経済と言われますが、実は外国人宿泊者数でみると、1. 何%というレベルでございまして、ゴールデンルートで大阪まで来た人が日帰りで広島に行って、平和記念公園と宮島を見て、それで帰っちゃうというようなところで、中国地方に回遊しない、宿泊しないという点は1つの課題で、運輸局としても取り組まないといけないというところで、そこは皆さんと向いている方向性は一緒だと思いますので、ぜひとも一緒にやっていければと思います。

それと共通の後半のところ、後ほど述べられるかと思いますが、団体客対策、個人旅行対策といろいろと書かれていますが、この大山隠岐国立公園の売りと

は何なのかと、他にないところは何なのかというところを踏まえて、例えば、アジア圏から自然体験とか教育旅行とかを呼び込むとか、そういったところまで踏み込まればいいのかと思いました。

あと、広島宮島の厳島神社、モンサンミッシェルと姉妹の提携を結んでおりまして、厳島神社とモンサンミッシェルと一緒に映ったパネルがフランスの展覧会などにも表示されて、その影響で厳島神社宮島は結構フランス人が多いところとなっています。姫路城とノイシュバンシュタイン城が何かいろいろと協定を結んでいるそうです。姫路城にもそういう効果でドイツの方が多く来るような傾向も今後見られると思いますので、姫路から大山隠岐は距離的にも近いので、そういうところと話をされて連携するやり方もありかなと。

中国運輸局も仲介できますので参考までに言わせていただきました。

(岡山県：大本部長)

2020年のオリンピックへ向けてこういった取り組みをしていくということで、スポーツ合宿や文化プログラムといった行事もいろいろな形で県としてやってきています。そういった機会に来ていただいた外国の方を今回のテーマである大山隠岐へ来ていただくことも重要かと感じております。

また短期的に見ていただくとなると、効率的に見ていただくためにもアクセスルートをきちっとして整備していくと。

こういうところへ来年鳥取県さんと岡山で観光連携も考えており、大山隠岐国立公園へ来ていただくような策を具体的に盛り込んでいく必要があると思いました。後ほど具体的な事業についても出てきます。なかなかまだ詰め切れてはいませんが、今後事業をきっちりとつくっていくことで外国の皆さんを呼び込みたいと感じたところでございます。

○休憩

(4) プロジェクトの実施

■情報提供

(島根県商工労働部：堀江課長)

外国人観光客販売体制構築セミナーに関する情報提供

■説明

公園全体のARとVPの設定について（共同事務局：藤重）

資料について説明。

(4. 1) 大山蒜山三徳山（共同事務局：西所長・鳥取・岡山県）

資料について説明。

(4. 2) 隠岐地域（共同事務局：水落R・島根県）

資料について説明。

(4. 3) 半島東部（共同事務局：島根県）

資料について説明。

(4. 4) 半島西部（共同事務局：島根県）

資料について説明。

(4. 5) 三瓶山（共同事務局：島根県）

資料について説明。

(環境省：西首席保護官)

只今の各地域取り組み方針説明について、皆様からご意見、ご質問がございましたらご発言をお願いします。

なお、ご説明の取り組み方針については現時点まで、予算、スケジュール、主体がほぼ明確なものと、まだまだ調整中で将来的に検討が必要なものが混在していることをご承知の上、よろしくお願いします。

■意見

(中海・宍道湖・大山圏域市長会：中瀬事務局長)

一つ誤解のなきようにということで発言をさせてください。島根半島西部の2、ここに観光アプリケーションによるビューポイントの誘導と案内を検討する、それから島根半島西、5頁、スマートフォン観光アプリケーションの導入、と

もに想定主体として私どもの名前を挙げていただいております。ありがとうございます。観光アプリケーションにつきましては元々松江市さんが導入されておりましたものを圏域全体で、これはいいものだということで範囲を広げてまいります。私どもの圏域5市並びに大山エリアの情報を発信します。これは4月の運用に向けて、現在は松江市さんですが、広げていきます。一般の観光案内もいたします。

ただ、出雲市さんは導入しますということだけを報告されたようですが、そこによってビューポイントの誘導を検討するとなっております。また先程の発言では誘導するというふうにかなり断定的な言い方でしたが、もちろん仲間でございますのでできる限りのことはしたいと思いますが、どういうものを想定されるかにもよりますが、ここへ専用の項目があるわけではないということだけはお含みおきください。

それから5頁のほうですけれども、これは恐らく同じことをおっしゃっているのかなと、スマートフォン観光アプリケーションの導入というのは、同じことであれば今申し上げたとおりで、アプリケーションを私どもの圏域全体に広げることは事実ですが、残念ながら現段階ではこの国立公園向きということで作っているわけではないということだけをご承知ください。

(共同事務局：島根県齋藤課長)

大変失礼いたしました。こういった可能性を地元の部会、地域協議会等で検討させていただきたいという思いでたたき台として書かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

(国土交通省町：松本環境調整官)

アクセスルートでいろいろ事業が多くなっている箇所をたくさん挙げていただきました。大変ありがとうございます。その中で、山陰道については全力を挙げて整備を進めているところではありますが、冒頭の、はじめにのところで2016年から2020年までの5ヶ年の計画と書かれてございますけれども、この発行年月自体がどこにも記載されていません。順次事業を進めておりました順次整備できています。山陰道だけではなくて道の駅関連、これも全力を挙げて整備をさせていただいておりますので、これらについていつの時点のものなのかを明確に書いていただきたいと思います。その中で、例えばこれが出来上がった時には既に整備が終わっているものもあると思います。例えば、Wi-Fi関係は直轄の道の駅に関しましては今年度中に整備をするということで全国的に取り組んでございます。なので、これが例えば来年度に発行されるのであれば、ここはすでに整備されているということになるかと思っておりますので、そういったところは明確にしておいていただく必要があろうかと思っております。

その他、大山の2頁から各箇所ガードレールについて、茶系ガードレールへ交換と決め打ちで書かれていますが、実は国土交通省では平成15年度に「景観に配慮した防護柵の整備に関するガイドライン」というものを作っております。その中で茶系ということであれば、ダークブラウン、その他に地域の状況や景観によってグレーベージュ、ダークグレー、オフホワイトの4色を選定しようとしております。このあたりについては決め打ちということではなくて、道理管理者とよく相談の上、決定していただきたいと思っております。

それから大山の4のところで、上の四角の4つ目、使用ルート上における公園境界付近において国立公園エントランス標識の整備を検討すると書かれております。これは他のところにもあったと思いますが、この意味がちょっとわからなかったもので、教えていただきたいのですが、これはルート上となると我々道路管理者が管理している道路の標識をイメージすることになるんですが、これについてはしっかりと道路管理者と協議していただくということが重要だろうと思っております。特に、道路標識の裏面を活用するというのがあったと思います。これは場合によっては荷重が増えますので、構造上問題がある場合も当然出てまいりますのでよく協議していただきたい。デザインに関しては道路で車を運転している人が見ます。裏面であっても、反対車線の人は見るということでもありますので、これは交通安全上、標識令というのがありまして、色とか文字とかが決められてございます。そこに例えば奇抜なデザインとかが入ってくると、かえって交通安全に支障を来すということで道路交通法及び道路法で決められておりますので、これについてもよくよくご相談の上、デザインを決めることが必要だろうと考えております。そのあたりも是非よろしく願います。

それから、三瓶の2のところに戻りまして、道の駅については、特に島根県内の松江国道管内の54号線の道の駅に関しては、デジタルサイネージについても既に設置しているのではなかったかと記憶しておりますので、このあたりも整備されてないような書きぶりをされますと若干違ってきますので、調整のうえ、記載のほどよろしく願います。

(環境省：西首席保護官)

ありがとうございました。

まず、いつの時点のものなのかというのは、これは12月策定ということで日付をしっかり入れさせていただきます。

茶系のガードレールについては道路管理者と相談の上ということで対応いたします。

(国土交通省町：松本環境調整官)

ガードレールの色に関しては、国土交通省のほうでは大体この4色のうちのどれかでやっておりますが、同一路線で国と県で色が異なっていた例もありますので是非県および市町村の方々におかれましては統一感のあるガードレール、ガードパイプの配色をお願いいたします。

(共同事務局：藤重)

大山の4で照会のあったエントランス標識の整備ですが、今まで環境省で国道や県道敷きの境界にあたるところに標識を設置させていただいたことはこれまでもありまして、それを整備するにあたって当然道路管理者とも協議して実施しているところであります。よってここで整備を検討すると書いてありますが、検討の中に道路管理者とも調整をしてという部分が含まれていると考えていただければと思います。

(真庭市：太田市長)

先程言いましたように広域的観点があるのではないかと思います。これは岡山県が言うべきでしょうけれども、岡山空港からの関係だとかというのもあります。

大山の1とか、4とかに真庭郡と書いてありまして真庭市は全くない、真庭市と真庭郡新庄村と言うので、古い地図を使ったのかと思いますが、このへんをどういうふうに書くのか考えていただければと思います。

それからもう一つ共通の問題で、高速道路の公称について一度ネクスコと相談していただけないでしょうか。岡山ー米子道や米子の人からいうと米子ー岡山道なのかもしれませんが、そういうことが二つ目。

三つ目は環境省が中心にされるので、いろんなものを出来る限り木製化、もちろん耐久性の問題もありますけれども、環境にやさしい共通のものとしてお願いしたい。

あと、正直言いまして岡山県と私どもの協議が非常に不十分だと思って、今日は恥ずかしい思いをしております。もう少し詰めてまいります。岡山県、よろしくをお願いいたします。

(共同事務局：岡山県妹尾課長)

ご意見、ありがとうございます。しっかりと真庭市、地元の関係者の皆様と協議をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(中海・宍道湖・大山圏域市長会：中瀬事務局長)

W i - F i ということとトイレの洋式化というのが多々出てきていると思います。全体の話としてですが。まずW i - F i についてでございます。前回第1回

の会合でも松江市の星野部長がおっしゃっていますが、要はW i - F i 整備が必要だと。公園に行き着くまでどう考えていらっしゃるのかということ発言されております。これについて環境省さんのほうからはなかなか手を出しにくいけれども関係省庁と協議しながら考えていくということでございました。今日また、お話もありましたが、W i - F i に関しては皆が興味を持っているとこで周辺市町村、公園周辺もこの整備を今回のプロジェクトで何かしら前に進めてもらえないかと。国交省さんの道の駅の話は非常に有難い話でございますが、そのようなことも今日ここで答えはなくても結構でございますが、また揉んでいただければというのが一つ。

それと私ども市長会は観光分野だけではなく産業振興等々のことにもかかわっております。そこで一つ情報提供でございます。トイレの洋式化というのが和式便器を単なる洋式の便座に変えるだけであればこれは話にならないですが、もしも新しく、自然浄化式やバイオでという考えがあれば、私ども圏域地元環境省様の認証か推薦か認定かで認められている無電源で無放流の装置があるそうです。今、海外にどんどん出しているそうです。今度インドへも展開しようとしているところです。個別企業名は出しませんが是非検討いただけるのでしたら地元企業のことも考えていただきたいというのが一つです。

それともう一つ、グランピングの言葉も出てきたんですが、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、当国立公園と類似環境を有するニュージーランドではグランピングではなくてホリデーパークという制度がございます。細かには述べませんが、ぜひ一度調べていただいて、研究していただいて何かしら参考になるかもしれないと思いました。そのあたりでよくあるのが、ボードウォーク、木道です。例えば美保の歩道整備とありましたけれども、そこをどんな場所かわかりませんが、自然植栽の上であれば植物を痛めないために木道を作る。例えば尾瀬などもそうでございますけれども、そのようなものもお考えになったらどうかと思いました。

(島根県生活環境部：難波次長)

何点か確認と要望ですけれども、まず要望のほうから。

先程も課長のほうからも隠岐の海士町のビューポイントの話が出ました。一応、私どもとしましては海士町にも是非ビューポイントという格好で載せていただきたい。と言いますのは、大体各市町村 1 ないし 2 箇所関係があるんですが、海士町だけ何もないという状況というのは島根県としてはなかなか辛い面もございますし、一生懸命ホテルも変えようとして動いておられる地域ですので、しっかり支援していきたいなという点では、中の島にも是非一つ設けていただきたいというのが 1 点。

それからアクセスルートの書き方で、県道○号、国道○号と書かれても、はっ

きり言って私らでもわからないのに、ここまで細かく書く必要があるのかなと。図でわかりやすく書かれたのでいいのではないかという気がいたします。

それから隠岐については小型の電気自動車を活用した観光などもあり、ハイブリット発電であるとか木質バイオなんかもやっていますので、再生エネを使って小型の電気自動車で島内を回るなどという話は、循環型社会、地球温暖化の中では非常に世界に打って出られるような取り組みだと思いますので、うまく工夫した取り組みにできないのかなと。

最後に、ステップアッププログラムというのはどうしても概略設計的な、基本設計的な面が強いと思います。当然、これが出来てから実施設計、詳細設計というところに入ると思いますが、それは引き続きどういう格好で行われるのか。例えばターゲット層をドイツ人にするとかロシアがいいとか言われますが、本当にその方達が例えば島根とか鳥取、山陰の合っているのかどうかは全然わかりません。そういうところをよく研究しているところに委託・検討をして施策というのが出てくると思いますが。ターゲット層自体が違っていたら、一生懸命頑張っても意味がないなというところもあります。そういうところの詳細設計、実施設計的なところ、そこへ多分Wi-Fiですとか関連ルートをどうするのかというところがあると思いますので、引き続き環境省さんのほうでしっかりと引っ張っていただきたい。

県のほうでもいろいろと模索はしているがなかなか調査費的なところのハードルが高いところもございますので、是非お願いしたい。

それと想定する主体ですが、先程中海市長会さんのほうからも、いろいろまだ決まってないよというのがありますが、どうしても鳥取県と島根県を見ますと島根県は調整中が多うございます。これは今後詰めていきますが、その時に国がどこまで主体となってやっていただけるのかというのが県庁内でも大きな関心のあるところなんです。なかなか国も難しい面があるかも知れませんが、できるだけ整備のほうの主体にもなっていただくなり、新たな制度を作っていただくということも議論いただければと思います。

(出雲市：園山係長)

先程、島根半島西部の説明もありまして、地元の会もやりながら意見を貰ったものが入っているもの入っていないもの等々ございます。これからの調整中というところを検討していきますが、先程島根県さんが言われましたように、国のほうがどれほどやっていただけるか、支援策がどれほどあるかというところで、この主体というのはかなり議論になってくると思います。12月20日のところまでこれが全て決定するかという難しいという感覚を持っております。以前、これは取りあえず12月20日にはアクションプログラムを作るけれども、その後更新をしていくと。年度ごとにとというような話もありましたが、そうい

ったところがあれば調整中のものは載せずに調整がすんだところで載せるとか、そういうことも考えておられるのか、そこらへんをお聞かせいただきたいです。

(共同事務局：宮内)

今のご質問の件にからめまして共同事務局としての考え方をご説明させていただきます。

特にこのアクセスルート、公園内における各地域、各ビューポイントの取り組みについては、只今の資料のとおり、本来であれば具体的にいつまでに誰が何のために何をやる、ということを出来る限り具体的に記載するようなかたちにはなっています。しかしながら、予算的、スケジュール的なこともあり、あと誰がやるのかというようなところもあり、調整中としているところが多く入っています。

とはいえ第3回で一応最終案を作らなければならないという状況の中で、出来るだけ精度を上げてそれまでに調整を詰められるものは詰めていきたいと考えていますが、事務局としては今の時点でやはり12月までに完全にコンプリートするというのは難しいと考えています。これは次年度以降のお話になりますが、各地域において新しい取り組みやアイデアが出て来たり、そもそも取り組むべきものがまだ掘り出されていないようなものもあるかと思います。あるいは取り組みとして予定していたものがいろんな調整の中で軌道修正が必要になることも当然予想されるわけで、今この協議会の構成委員の皆様にご了承いただけるのであれば、各地域、各ビューポイントの個別具体の取り組み内容については、来年度以降もこの協議会で取り組みをフォローアップして行き、その中で柔軟に見直しや修正を進めていくというかたちで考えさせていただきたいと思っておりますが、この点についてはいかがでしょうか。

(一同)

異議なし

(共同事務局：宮内)

考え方としてこのようなことで協議会の各構成委員の皆様方と共有させていただきたいと思います。

(共同事務局：島根県齋藤課長)

今、共同事務局として環境省さんからお話でしたが、またうちのほうでは1週間後に県版の地域部会を予定しております。それまでに共同事務局で摺り合わせをして地域部会の中で改めてご説明をし、各地域に持って降りていただきたいと思います。ただ、満喫プロジェクトで重点取り組み地域として取

り組もうというのであれば、国も県も地元市町村も三者が一緒になって取り組めるものがあるのがベストとっております。当然、行政の場合は予算の問題がありますので、来年度のこともまだ確定してない段階でどこまで書けるのかというのがありますし、5年先のことをどこまで書けるのかというのがございますので、共同事務局内で擦り合わせをしてまたお返事をさせていただきたいと思えます。

■説明

(5) 誘導・プロモーション策（共同事務局：森）

(6) 効果検証（共同事務局：牧）

■意見

（山陰インバウンド機構：市村事務局次長）

私どものプロモーションは、観光庁の山陰広域観光周遊ルート「縁の道～山陰～」ルートロマンティック山陰ということで6月に正式に石井大臣のほうから認定を受けて動いております。ですので、この「縁の道」の中にももちろん大山隠岐国立公園というのは入っていますが、全体が12拠点で構成されており、特定地域に特化してプロモーションやファムが出来るのかというところは今後我々のカウンターパートナーである中国運輸局さんや観光部と相談していかないといけない点がまず一つございます。

それからターゲットや目標数をそもそもこの満喫プロジェクトのなかで設定をしているのであれば、やはりそれに特化したようなプロモーションを行っていかないと、この数字を稼いでいくというのは結構大変なのかなと。配布資料のなかにデービット・アトキンさんの「ふらっと訪れたらただの山、それは決して特別な山ではない」という記述がございました。我々が狙っているのは大山隠岐国立公園と言うのが、ただの山ではなくて特別な山なのだと。冒頭のほうに「神話、信仰が息づく」というようなコンセプトもありましたので、そういうことになるとやはりそのストーリーをきちんと伝えるというようなガイダンスやプロモーションがマストだろうと。それによって誘客ができたり滞在延長ができたりということかと思えます。

というところでプロモーションというのは結構考えて行わないといけないので、我々は確かに山陰インバウンド機構として私たちの第一のミッションが「縁の道」を売って行く、世界市場に向けて打って行くというミッションがございしますので、その中に含ませるだけで良いのかというところも含めてお考えいただければと思えます。

（中国運輸局観光部：木嶋部長）

市村次長がおっしゃったとおりですが、運輸局のほうでもビジット・ジャパン事業や広域周遊ルート事業で各自治体さんと協力しながらやっておりますので、是非ともこの件も運輸局も是非協力したいと思っておりますし、また運輸局は中国地方全体を見ておりますので、大山隠岐だけを売るといようなかたちではなくて、山陰の中で大山隠岐をどのようにして売って行くのかというような広域的な視点となりますので、いろいろと相談していただければと思っております。

あと、大山隠岐とか山陰の知名度を上げるのは必要ですが、観光行政をやっている大きな意義として、それぞれの地域にお金が落ちる仕組みにならないといけないということです。もちろん名前を売って行くのは大事ですが、いかにして現地に泊まっていただくかと言うところで、例えば夜の体験だったり、早朝にしか見えない景色だったり、そういった観点をもっと磨いていただいて、それにストーリー性をからめて、いかにして現地に泊まってもらおうかというようなプロモーション策など考えていければと思っております。

もちろん運輸局も協力させていただきます。

6. 閉会

（環境省：西首席保護官）

ありがとうございました。

次回は12月20日米子で第3回協議会を開催する予定とさせていただきます。

■意見

（真庭市：太田市長）

その次は岡山県でやっていただけませんか。

県庁、頼みます。蒜山で結構ですから、設定いたしますから。